

雲南圏域ワーキング報告

1. 雲南圏域ワーキングの開催について

(1). 第2回雲南圏域ワーキング概要

2018年(平成30年)11月22日に、雲南市域の委員を中心に参加いただき、コウノトリと共生するまちづくりビジョン案について意見交換を行った。

日時	2018年(平成30年)11月22日(木)14:00~16:00	
場所	雲南市役所5階 委員会室1・2	
出席者	(株)山陰中央新報社 出雲総局長	舟越 幹洋
	(公財)日本野鳥の会 副会長	佐藤 仁志
	島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課	星野 由美子
	春殖地区振興協議会 会長	石川 幸男
	赤川ホテル保存会 会長	松田 勉
	(一社)雲南市観光協会 会長	塚本 祐次
	雲南市立西小学校 校長	和田 邦子
	元島根県立農業大学校 校長	川津 史郎
	島根わくわくサイエンス研究会 代表	秦 明德
	出雲河川事務所	
雲南市		
(公財)日本生態系協会		
内容	コウノトリと共生するまちづくりビジョン(案)について	

(敬称略)

“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン策定経過

コウノトリが雲南市内に定着する見込みが高くなる中、コウノトリと共生するまちづくりは市政全体に好影響を及ぼすことから、継続的な飛来・営巣とその波及効果を高めるための方策を明確化するため、ビジョン及びアクションプランを策定することとした。

9月に設置した関係部局によるプロジェクトチームによる協議や視察を踏まえて素案を策定した。

委員からのコメント

- 観察や調査、撮影に対する「マナー」の浸透を入れておく必要がある。
- 農家の意識がとても重要。現状や事情にも考慮が必要。
- よけじの説明、生きものにとっての重要性を説明するとよい。
- 子どもたちへの環境教育が重要。

“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン(案)

【基本方針】

“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくり

1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり
2. コウノトリがもたらす恵みの好循環
3. 継続的な活動を支える仕組みづくり

以上の基本方針に基づき、“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりを進め、雲南市のブランド価値の向上を図ります。



今後の展開

- 現在パブリック・コメントを実施中(2019年2月18日(月)まで)
- 2019年3月ビジョン策定
- 2019年度(平成31年度)アクションプラン策定

「幸せを運ぶコウノトリと共生するまちづくり学習会」を2019年2月9日(土)に開催する予定



(2). 第3回雲南圏域ワーキング概要

2019年(平成31年)1月28日に、出雲地域も合わせた出雲・雲南地域の方々にご参加いただき、コウノトリ・トキをシンボルとした事業の展開について意見交換を行った。

日時	2019年(平成31年)1月28日(月)14:00~16:00	
場所	雲南市役所3階301会議室	
出席者	(株)山陰中央新報社 出雲総局長	舟越 幹洋
	(公財)日本野鳥の会 副会長	佐藤 仁志
	島根県立三瓶自然館サヒメル 学芸課	星野 由美子
	春殖地区振興協議会 会長	石川 幸男
	加茂まちづくり協議会会長	舟木 清
	赤川ホテル保存会 会長	松田 勉
	雲南市立西小学校 校長	和田 邦子
	島根わくわくサイエンス研究会 代表	秦 明德
	島根県農業協同組合 雲南地区本部中央営農経済センターセンター長	佐藤 善雄
	斐伊川漁業協同組合 代表理事組合長	山根 成二
	(一社)雲南市観光協会 会長	塚本 祐次
	元島根県立農業大学校 校長	川津 史郎
	NPO法人いずも朱鷺21 理事長	原田 孟
	NPO法人国際交流フラワー21 理事長	青木 広幸
	出雲市立神戸川小学校 校長	黒田 誠
	島根県農業協同組合 出雲地区本部営農部部長	坂本 満
	出雲市	
	奥出雲町	
	飯南町	
島根県		
国土交通省出雲河川事務所		
環境省 大山隠岐国立公園松江管理官事務所		
雲南市		
(公財)日本生態系協会		
内容	今後の進め方について	

(敬称略)

今後の進め方について

コウノトリは今年度も雲南市内で営巣し、国内初となる4羽の雛が無事に巣立った。また、出雲市ではトキの分散飼育に長年取り組む中で、昨年12月の試験公開をうけ、本年7月には本格的に一般公開が始まる。

コウノトリの安定的な生息及び、将来的なトキの放鳥を見据えた環境保全のために、両種を一体的なシンボルとした自然再生と地域振興を広域的に推進していくことが効果的。

- 来年度よりコウノトリ・トキと共生するまちづくりをめざした取組みを効果的に推進するために、出雲市・雲南市・島根県が協働し、事業を行う。
- 国管理河川区域以外の環境(県管理河川区域、農地、里山等)や地域振興も一体的・全体的に推進していくために、環境省の「生物多様性保全推進支援事業」を活用する。

委員からのコメント

- コウノトリは出雲にも飛んできている。トキはまだ飼育舎の中にいるがいつでも観察できる。両地域が異なる状況をうまく活用して、広いエリアで認知を広げたい。
- 子どもたちの参画は極めて重要。是非子どもたちに働きかけてほしい。
- 生きものの観点からと、農業の観点からと、双方向から仕組みを考えていきたい。

今後の展開

- 同日、「第一回出雲・雲南地域広域連携生態系ネットワーク推進協議会」を設立した。
- 事業内容については、交付金を活用し、普及啓発のイベントや学習会、現況把握調査やビオトープ管理手法検討、行動計画の策定を行う方向性で検討する。

